

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 ご利用者：100代・女性・要介護5

病 名：慢性心不全・慢性腎不全・腰椎圧迫骨折・右肋骨骨折

利用サービス：令和4年5月～長期入所

経 過：99歳までほとんどのADLが見守り下で行えており、100歳の誕生日を心待ちにしていたご利用者が身体能力の衰退から精神的に落ち込み生きる気力を無くしてしまったが、ご本人の意思を尊重し職員が愛情を持って寄り添い関わらせて頂いた結果、生きる意欲を取り戻し目標としていた100歳を迎えご利用者には輝きの一日をご家族には安心を超えた感動を感じていただけた症例。

内 容

ご利用者は99歳まで杖歩行をされ、ほとんどのADLが見守り下で行えていましたが、徐々に杖歩行が不安定となってきました。おやつ時間に和菓子でむせ込み、不安になってしまった事がきっかけで、飲み込む力の低下が見られるようになりました。また、便失禁を経験されたことや転倒されたことから、「こんなのは自分ではない」と大きなショックを受け、自信を喪失してしまいました。それまで「100歳まで生きたい」「頑張る」が口癖だったご本人が、「もうダメ」「100歳は無理」と口にする事が多くなり、ふさぎ込む日々が続くADLもほぼ全介助にまで落ちてしまいました。そこで職員は、ご本人が出来なくなったことを否定せず、現在できることを肯定的に捉え、愛情を持って寄り添いながら、一緒に喜びを共有する声掛けや関わりを心がけました。また、ご本人の意思を尊重し、トイレの介助を行うことで立位が安定し、車椅子から食堂の椅子への移動もスムーズになっていきました。さらに、リハビリスタッフと情報を共有しながら車椅子自走の練習を進めた結果、長い廊下を通り居室までご自身で移動できるようになりました。この成功体験を通じて「自分の力でひとりで移動できる」という自信が芽生え、笑顔と会話が増え、明るい表情を見せてくださいました。ご本人には、息子さんをご自身の膝の上で看取られたご経験があり、「息子の分まで長生きしたい」「100歳まで生きたい」という思いが強かったのだと思います。一時はご家族にもお看取りの同意をいただき、最期を覚悟されていた中でのことでしたが、最終的に100歳のお祝いの日を迎えることができました。式典の朝、ご家族がお持ち下さった新しいお洋服を着て職員が「お化粧品とマニキュアをしてみませんか」と提案すると、「すごく嬉しい」「きれいにして」とおっしゃり、鏡の中のご自分のお顔をとても嬉しそうに見ていらっしゃいました。華やかな表情で松崎町の町長やご家族とともに晴れの日を迎えられました。翌日の新聞に写真と記事が掲載され毎日嬉しそうに眺められています。また、施設の運動会では選手宣誓を立派に務められ、MVPにも選ばれるなど、大変輝かしいひとときとなりました。後日に、ご家族と大好物のお寿司を食べに外出され、心から楽しまれていました。

この症例は、100歳を目前に状態が悪化した方が、生きる意欲を取り戻し、目標としていた100歳を迎えるとともに、なお意欲的に生活されていることを示しています。職員とリハビリスタッフの連携や、ご本人の意思を尊重した支援が、ご本人の生活意欲を支え、笑顔と輝きを取り戻す大きな力となった事例です。